

まとめ

2020~2021年

# まちの「つながり」プロジェクトの これまでとこれから 地域独自の「自走」を目指していきます

## 地域に根ざした ビジネスモデルの構築を

空き家を活用するまちの「つながり」プロジェクトは、3か年の締め括りの年となる2022年度の後、地域で「自走」していただくことを目指すプロジェクトです。

その自走というゴールを目指し、初年度の20年度は調布市外のさまざまな場所で空き家活用を行っている実践者を招いた講演&トークセッションを4回、21年度は地域のプレーヤー目線で活用のノウハウを語れる方を講師に招いて4回の講演&トークセッションを開催しました。

それらは「空き家をどのように見つけて改修、活用しているのか」「地域のプレーヤーはどのようなきっかけで育っていくのか」といった、ハードとしての「建築」、ソフトとしての「運用」に関するアイデアを参加者のみなさんに得てもらうことが狙いでした。



2021年度の講演&トークイベントはオンライン配信で行われたが、回を重ねるごとに調布市民はもちろん、市外からの視聴者も増加し、関心の高さを感じた。



### STEP 2

2021年度に予定していた空き家活用の実践ワークショップはコロナ禍で実施を断念。講演&トークイベントはオンラインで行い、今後、地域の方々が「プレーヤー」になっていただけるよう、全国各地でプレーヤーを育成したり、自身がプレーヤーとなっている方を講師として招いた。年度末には活用する空き家が決まり、運営者の公募を開始!

### Phase2 2021年度



のビジネスモデルの実践を目指していただきます。  
本業とは別の「副業」としての活用や、運営時間や規模を小さくして商売をする「小商い」など、地域に根ざした新しいビジネスモデルが生まれるよう、多方面からサポートしていきます。  
まちづくりプロデューサーの菅原大輔さんは「自分が暮らす地域を、この先もずっと居続けられる場所にするために、チャレンジショップの事業を活用してノウハウを蓄積ほしい。そし

て、事業を続けていくために、100円でもいいので収益が出ることを目指してほしい」と話しています。  
また、同じくまちづくりプロデューサーの高橋大輔さんは「チャレンジショップがきっかけとなり、人の交流が生まれ、みなさんが幸せを感じられるまちになればと願っています。一人暮らしのご高齢の方がふらりと立ち寄ることができ、世代を超えた会話ができれば、最終年度の成果に期待しています。」

### STEP 3

プロジェクト最終年度の2022年度は、空き家を使った「富士見町チャレンジショップ」をオープン。地域の活動と連携しながら、新たな交流やつながりを生み出したり、持続的な収益を生み出すアイデアの実践の場にしてもらう。23年1月までの期間限定で、その成果を改めて地域の空き家活用に生かし、「自走」を目指してもらう。

## チャレンジショップの成果を

## 調布市全体、全国各地と

## 共有し、広げていきます



## 自走する

### Phase3 2022年度



### STEP 1

まちの「つながり」プロジェクトは2020年10月にスタート。初年度は調布市外の事例を学ぶ講演&トークセッションを4回開催し、報告書を発行した。

報告書PDFは市のホームページで見ることができます。



### Phase1 2020年度





これから  
2022年～

# 富士見町チャレンジショップは、地域の交流と新しい魅力を生み出す場所です

運営者の公募、公開審査を経て、  
22年6月1日にショップ始動！

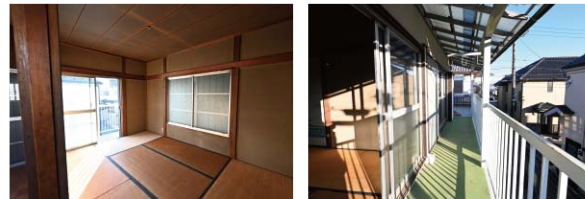
空き家を実際に活用する「富士見町チャレンジショップ」。運営者の公募に  
関しては、2022年2月28日から調  
布市役所のホームページ上で情報を公  
開し、4月8日までを応募期間としま  
した。

公開審査・プレゼンテーションを4  
月30日に開催します。まちづくりプロ  
デューサーの高橋大輔さんを審査委員  
長とし、同じくまちづくりプロデュー  
サーの菅原大輔さん、第6回講演&ト  
ークセッションのゲスト講師であった

その後、一次審査として書類審査を  
行い、2次審査に進んだ方を対象にし

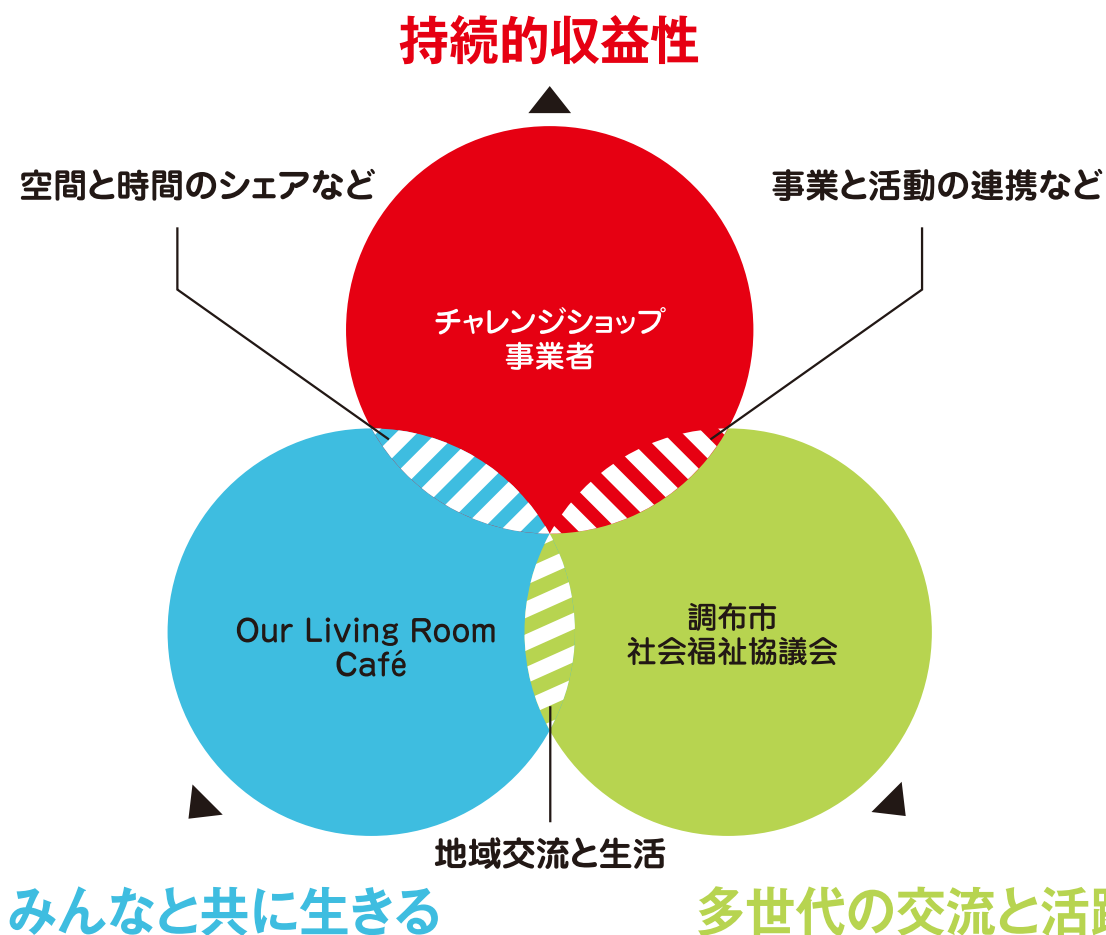
丑田俊輔さん、市役所担当者らの審査  
員が「新規性」20点、「持続性」20点  
「地域活動との連携」10点  
の観点と得点配分で審査を  
行います。

結果発表は5月2日で、  
ショップオープンは6月1  
日です。ショップは23年1  
月までの期間限定で、同年  
1月28日に運営報告会の開  
催を予定しています。空き  
家ではショップのほかに  
も「Our Living Room Caféの  
図書室運営、調布市社会福  
祉協議会の活動なども行わ  
れ、互いに連携します。



結果発表は5月2日で、  
ショップオープンは6月1  
日です。ショップは23年1  
月までの期間限定で、同年  
1月28日に運営報告会の開  
催を予定しています。空き  
家ではショップのほかに  
も「Our Living Room Caféの  
図書室運営、調布市社会福  
祉協議会の活動なども行わ  
れ、互いに連携します。

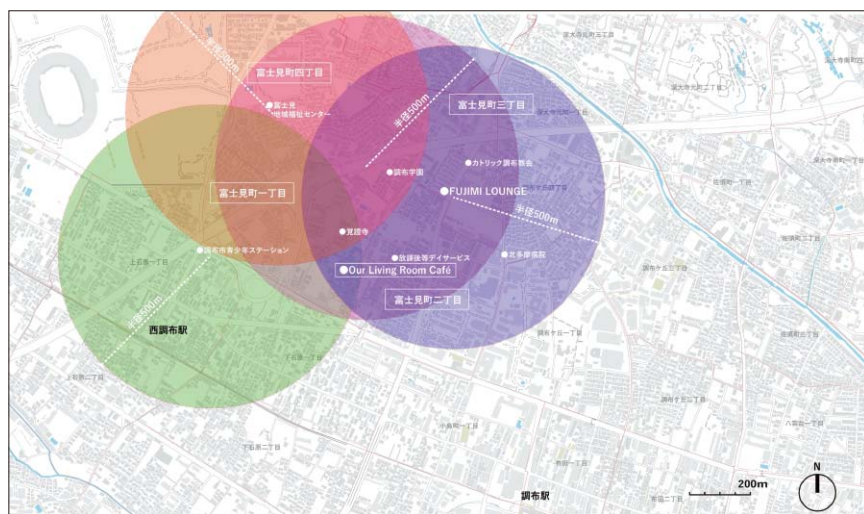
## チャレンジショップとOur Living Room Café、調布市社会福祉協議会の連携イメージ



# VISION 2022年・23年に向けた 富士見町の空き家活用ビジョン

- 1 地域のつながりを稼いで継続する、小商いモデルの構築
- 2 多様なコミュニティを生み出す空き家・空きスペースの活用モデルをつくる
- 3 富士見町から郊外住宅地のリビジョンモデルを発信する

## 地域住民が徒歩圏域＝半径500メートル圏の居場所づくりに参加できる社会へ



高齢になるとクルマの運転が難しくなる場合もあり、徒歩圏＝半径500メートル圏に自分が行きやすいコミュニティの場や好きなカフェなど、居場所を持つことが必要になる。空き家を上手に活用し、そのような居場所をつくることで、自分たちのまちや家に対する「愛着」が生まれ、散歩することが楽しくなるようなまちになる。

## まちの拠点ができることで、地域の新たな担い手や文化が育つ

今回活用される空き家では富士見町チャレンジショップのほか、まちライブラリー(図書室)を展開するOur Living Room Caféも入居し、まちの拠点となる。また、すでに富士見町で地域活動を行っている団体などがサポートに入ること、まちの新たな担い手や文化が育っていくことが期待される。

### まちのつながりプロジェクト空き家活用提案 連環する徒歩圏とバス停圏

Our Living Room Café は富士見町でのひと・もの・機会の接点となります。

これまで培ってきたさまざまな人と場所のつながりが連環して、  
空き家活用が「富士見町」の人と文化を育てます

#### まちの担い手と文化を育てる

**Our Living Room Café**  
まちライブラリー  
リビングカフェ  
チャレンジショップ  
庭を使ったワークショップなど  
地域住民が自ら運営を継続できる場を  
構築する

#### まちの先輩

**覚證寺**  
「まちのつながりプロジェクト」  
発祥の地であり、世代を問わず  
地域の人をつなげる場所  
こども食堂  
トークイベント

**FUJIMI LOUNGE**  
進行く人がフアリと立ち寄り、  
それぞれの思いに過ごす  
「まちのリビング+カフェ」  
地域×食×文化×教育  
まちの工作室

